

令和4年度の学校評価結果と改善の方策をお知らせします。
別添で保護者と職員の結果を掲載しました。ご覧ください。

1 本年度の重点目標

児童生徒が見通しをもち、自ら進んで主体的に行動する人を育てる

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

重点的に改善が必要な項目等について、次に掲載します。
なお、結果等にある項目内容については、別添の資料を参照してください。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
平均値が最も低く重点的な改善が必要な項目	平均値は3.2ポイントである。 最も低い数値は2.9、項目10「小・中学部、高等部のつながりに配慮した教育課程の編成ができています」である。 また、項目4「自立に向けた指導のための教材の準備を十分にできる環境が確保され、担当する授業時数もそれに応じた適切な配分となるよう改善している」について約2割の否定的な回答がある。 ※項目30「PTA活動」についてはコロナ禍において活動が困難であったことに起因している。	【保護者】 平均値は3.2ポイントである。 最も低い数値は項目8「本校のICT教育（タブレット端末の活用など）の推進について分かりやすく説明されていますか」の2.6ポイントである。 また、項目9「児童生徒が学習で身に付けた力を普段の生活で発揮しているか」について約16%の否定的な回答がある。 ※項目11「PTA活動」については、コロナ禍において、活動が困難であったことに起因している。
改善方策	自己評価で最も低くなった項目10については、本校の教育目標を育てたい力について、教職員一人一人が理解し、各発達段階で何を目指し、何を身に付けさせたいのかを明確にした教育課程の改善について、自立を促す適切な指導体制の見直し、校内研修における授業改善の積極的な取り組みを次年度も継続して実施することにより取組を促進する。 また、項目4に関わり、会議の削減や研修時間の確保など週単位、月単位、年単位での計画的な改善を図り、職員の専門性向上のための働き方改革を推進する。 保護者評価は概ね3.2以上の評価を得られてはいるが、項目8並びに9の結果を踏まえ、教育内容について「何を」「いつ」「どのように」「学ぶ」かの視点を明確にわかりやすく説明するとともに、ICT機器を活用した実践について、学級通信やホームページ等において積極的に情報発信を進める。また、PTAと連携し、諸制度や各学部間での特色のある教育活動（どのような力が身に付くのか）について周知する機会を積極的に設定する。	
自己評価の数値よりも学校関係者の数値の方が低い項目	その他の項目において、保護者からの評価が下回る項目はない。	
改善方策	全体的には平均値を上回る結果となっているが、ICT機器を活用した教育活動に係るわかりやすい説明や学んだことを生活に活かすことについての意見が寄せられていることから、丁寧かつ具体的な説明について、研修を進めるとともに保護者懇談を通して改善する。	
自由記述	感染症対策を含めた「危機管理」について評価を得られた一方、「学校経営」については、業務量の偏りの改善、「教育課程」については、つながりのある教育活動に係る改善に関する意見がある。	【保護者】 生活につながる指導の充実に対する要望や施設設備の改善についての意見がある。
改善方策	意見を参考に教育活動の改善や保護者の意見を踏まえた障がいの応じた生活力を高める教育活動の改善充実などに継続して取り組む。	
公表方法	本校公式ホームページに集約結果等を公開している。 PTAの役員会並びに全体懇談会において、説明し、意見等を拝聴している。 学校運営協議会委員に文書を配布の上、説明し指摘、意見等を拝聴している。	

3 添付資料

- (1) 資料1 令和4年度教職員・保護者による学校評価の集計結果